



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

愛をつなげ育てる

赤銀杏会 ぎんなん



「雑草の心の絆」

奉仕活動グループ赤銀杏会は設立されて29年。1981年から始められた加藤旭会長の遺志を引き継いでホームレス（失業者）の人達への炊き出し

・緑化活動への参加・就労支援を行っております。

全体としてホームレス数は減少していますが、地域によっては増加しているところもあり、55〜64歳、65歳以上の割合が増えています。長期層49%（野宿が4年以上）では55〜64歳の割合の増加が大きく、新規参入層33%（野宿が4年未満）では45歳未満と65歳以上の割合が増えている。再流入層18%（野宿が4年未満で、初めての野宿が4年以上前）となっています。



「路上で収入を伴う仕事をしている」と答えた人の割合は、長期層で80%、再流入層で68%、新規参入層で60%となっており、仕事の種類は廃品回収の割合が最も高くなつ

ています。就職するために望む支援として「住所を設定する必要があるのでアパートがほしい」とする者の割合が最も高く、次いで「就職の際の身元保証の援助」、「自分たちにあつた仕事先の開拓」とする割合が高くなっています。（平成19年ホームレスの実態に関する全国調査 厚生労働省のHPより）

「残飯を捨てたポリバケツをきれいに洗って戻してくれた」

当時、新宿で板前をされていた会長の石崎克雄さんは、そんなホームレスの人達の心遣いが嬉しくて、新宿の都庁の地下で炊き出し活動を始められました。赤銀杏会の会員は60名余、無償の愛と労力は並々のものではありません。

石崎さんは毎日朝3時に起床し、1斗の米を炊き出し、メーカーから寄付された食糧等を持って、上野公園で120食、馬喰町で400食を5時〜6時半、ホームレスの方達に年間25万2千食の配布をしています。大晦日には、年越しそばを、年始にはお餅一人5個を焼いて配布しております。

「古古米でも炊き方次第で美味しくなる」

毎日毎日の事ですから、お米の調達で四苦八苦しております。お米1合でも寄付を頂けたらと望んでおります。



また、赤銀杏会は清掃活動と緑化活動も行っております。上野公園・汐入公園・尾久の原公園の一角と荒川区・北区・足立区の河川敷

にホームレスの方達が花壇を作っています。ブロックを積み上げて周り囲み、雑草を抜いて耕し種まきをして丹精込めて花を育てています。

「仕事先とやる気があればできる」

また、10月には青森までホームレスの方達43名をバスで送り届け、りんご園の農家で働く就労支援も今年で2年目を迎えました。6人が、青森に就職致しました。その中には80歳近くの方もおります。11月には静岡県袋井市の浅羽院のご協力を得て、50名の方達がみかん農家で就労致します。



この20年の活動の中で100名近くの方達が、社会復帰できました。国等の助成金は一切なく企業・個人のカンパや寄付で賄われています。ボランティア花壇一口3千円・ホームレス支援一口千円より。

古着・お米・塩・醤油等一般食品も不足しております。寒くなつて来ます。暖かい春の心を照らしてみませんか。暖かなご支援を・

◇赤銀杏会◇

荒川区荒川4-42-1
TEL (3805) 0064 FAX (3805) 0164
ご寄付振込先
ゆうちょ銀行 (店番号018)
普通9846202
口座名：ボランティア福祉団体赤銀杏会